

平成 26 年度第 1 回サイバー・キャンパス・コンソーシアム
土木工学グループ運営委員会議事概要

I. 日時 : 平成 26 年 4 月 16 日 (水)、10:00~12:00

II. 場所 : 私立大学情報教育協会事務局 会議室

III. 出席者 : 北詰委員、武田委員、栗原委員
(事務局) 井端事務局長、野本職員

IV. 議事内容

1. 平成 26 年度委員会活動の進め方について

今年度は、教育の質的転換に向けた教育改善を促進するため、ICTを活用した能動学修(アクティブ・ラーニング)への取り組み方策等についてテーマを設定し、研究を展開して必要に応じて教員有志による対話集会を開催し、実践事例の紹介及び意見交流を通じて理解の促進を図ることとしている。今年度の取り組みについて以下の意見があり対話集会の実施が検討された。

- ・ アクティブ・ラーニングの実践については3年程度続け、結果をまとめていくことも確認した。
- ・ 実践に向けて、国立大学の事例が成功例、失敗例を含めて紹介された。
- ・ 例えば、形を重視して実施した場合に学生の興味・理解に差があり、グループとして成り立たずアクティブな形まで到達できないこともある。
- ・ また、LTD(話し合い学修)とPBL方式の組合せから予習の分担からチームを代表して課題を提示し、チームで理解を深める取り組みや映画から課題を見つけ対策をチームでプランの検討をする取り組みがある。
- ・ アクティブラーニングで対象とするのは、初年度教育に適している。学会での議論もある。
- ・ アクティブラーニングの最終目標は、「自分で目標をつかみ行動できる」ことにある。
- ・ 各大学の多くの教員が集まり、議論するのがよい。現場で支援しあい、取り組んでもらいたい。
- ・ 実施できる授業とできない授業はあるが、大人数での双方向授業で正解のない問いを出すなどの工夫が考えられる。
- ・ 意見交換の場では、十分達成されていない要因・改善点やグループへの評価など議論が必要ではないか。

2. 対話集会に向けた今後の研究の進め方

対話集会の実践に向け、以下のことが確認された。

- ・ 都内の大学で対話集会を開催することが検討され、会場については東京都市大学を候補として、教室空き状況等を確認することとした。
- ・ 次回委員会において、対話集会の要項を作成し、6月下旬に案内することとした。
- ・ 対話集会の内容については、JABEEのエンジニアリングデザインにも活かすことができるものにとすると良いとの意見があった。
- ・ 事例紹介は委員から「初年次教育」と「3年生の授業」の取り組みを予定することにした。

V. 次回委員会

次回委員会を2014年6月11日(水)、13:30~15:30に開催することとした。